

地域の宝物を守るために 大切にしたい

8つのポイント

牧之原市のローカル・コモンズから



この冊子の使い方

自然環境、祭り、食、ボランティア活動等々・・・地域には、有形・無形かわらざるみんなが大切にしている財産（ローカル・コモンズ）がたくさんあります。それらには、地域の魅力や先輩方の素晴らしい知恵等がたくさんつまっています。

そこで、ローカル・コモンズを守り育てる上で大切なことは何か、実際に静岡県牧之原市で活動している皆さんにインタビューをし、「8つのポイント」としてまとめました。

この冊子を手取ることで、これまで地域で大切にされてきたローカル・コモンズをこれからの時代にもつなげていきたいと活動されている皆さんのお役に立つことを願っています。

「8つのポイント」ができるまで

2018/9/2

【みんなの財産を発見して地域の力を高めよう】を開催。大江正章氏（コモンズ代表）を講師に招き、牧之原市民約40人でワークショップを行い、牧之原市内で大切にされているローカル・コモンズを出し合った。

11/23

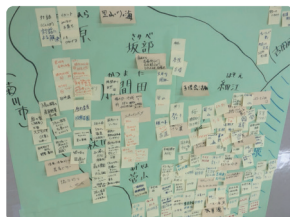
牧之原市民で研究チームを結成。前述のイベントで出し合ったローカル・コモンズの中から特に調べるテーマとして以下の4つを選んだ。農業、お祭り、地域に開かれた学校、おはなし会ボランティア。

12-2019/1

テーマごとで、実際に活動している人たち計14人にインタビューを実施した。

1/5

全員のインタビュー内容から、共通しているものについて話し合い、「8つのポイント」としてまとめた。



インタビューに協力してくださった皆様

農業

横山眞一さん、山本和弘さん

地域の歴史、文化、里山等を保全する活動を通じて地域の活性化に取り組む「NPO法人勝間田塾」の会員。2009年に発足。農業を使わない安心、安全な農業事業も実施している。

地域に開かれた学校

岩本幸子さん

牧之原市立萩間小学校長。萩間小学校では、農業体験や福祉体験等、学校の活動に対して地域の人に協力してもらう「支援員」の仕組みで授業を行っている。

原口徹也さん

牧之原市立地頭方小学校教頭。地頭方小学校では、学校の授業、クラブ活動、読み聞かせや校舎内の生け花等を、地域のボランティアの力を借りて実施している。

おはなし会ボランティア

増田由美子さん、河原崎洋子さん

山田堯子さん

「グーチョキパー」メンバー。牧之原市立相良小学校、萩間小学校、地頭方小学校で朗読等に取り組む。1985年頃に発足。

植田由美子さん、鈴掛雪野さん

「おはなしパレット」メンバー。市内の幼稚園、小学校、老人会、老人ホーム等で読み聞かせや読書活動に取り組む。2008年頃に発足。

祭り

今野剛也さん

波津佐和乃神社の祭典を実施するため、相良区からなる「さ組」の役員。2011年に復活した「さがら灯ろう流しの会」メンバー。

大石通之さん

牧之原市立萩間小学校支援員。支援員としてのボランティアグループ「よこぐらさん」を20年ほど前に立ち上げ、代表を務める。

増田文博さん、山下七雄さん

牧之原市立地頭方小学校で、農業活動を指導する地域ボランティア。増田さんは地元企業の会社員。山下さんは、地域活動団体である「末広会」会長。

浅野久子さん

「おはなしクラブ」メンバー。市内の小学校や老人会等で素話に取り組み、素話ができる人を養成している。1993年頃に発足。

※「素話」・・・本などを使わず語り聞かせをすること



地域にあるものに 目を向けよう

1



私たちがまだ気付いていないだけで、地域には多くの宝があるはずです。「あるもの」に目を向けて磨いていきましょう。それが「ローカル・コモンズ」です。

インタビューでの声

「自然に生えているもので、私たちが見逃している食材がたくさんある。野草や雑草も。知って活用することが必要」(横山さん、山本さん)

「いつのまにかやらなくなった灯籠流しを「良いイベントだったからまたやりたい」と地区の有志で5年ほど前から復活させた」(今野さん)

「はじめは5年生が米づくりで支援いただき、今ではかかしコンクール、しめ縄づくり、どんと焼きまでご指導いただいていた」(原口さん)

牧之原市民研究メンバーの感想

自分の物事に関する価値観や今までの考え方が変わった気がします。また、今まではそんなに特別だと思わなかったものでもふとした瞬間に思い出されて大切に守りたいと思うようになったときに私は感銘を受けました。(大石貴文)

どうやって始まり どうつなげていくか

2



ローカル・コモンズでは、周りから尊敬・信頼されている人や団体により始まり、続いていくことが多いようです。「やってみない？」という声かけ、「やってみよう」という思いを大切にしていきたいです。

インタビューでの声

「公民館主事をやっていた当時、相良公民館の館長さんがボランティアを集めたことがきっかけ」(大石さん)

「40年前、地頭方地区中心で年代が同じくらいの人たち30人くらいから始まった」(山下さん)

「相良小学校の家庭教育学級での朗読の会がきっかけ。一人の先生の呼びかけから立ち上がり、現在では他の小学校でもおはなし会が開催されるようになった」(増田さん、河原崎さん、山田さん)

牧之原市民研究メンバーの感想

牧之原市市民研究チームの一員として、新しいものを見つけるだけでなく地域の宝物を守ること、そして、その宝物をよりたくさんの人に知ってもらえるようにするために大切にしていきたいと思います。(大石未紀)

活動の意義を信じよう

3



活動の根本は「自分達の活動は大切なことだ」という意義を信じることです。また、長い間をかけてそれらの意義を育て、深めていくことも大切です。

インタビューでの声

「子どもは地域の宝だ。子どもたちを見守るとのこと。他の地域の人たちもそう思っている」(浅野さん)

「時代は変わっても、プライドを持ってやりたいという気持ちは同じ」(今野さん)

「(萩間)小学校は地域の人とともにある学校」(岩本さん)

牧之原市民研究メンバーの感想

「観光資源が眠ったまま目覚めていない」と誰かが言っていた。今回ローカルコモンズに参加して地域の方より未知の観光資源の情報を伝え受け取ることができ、自分の地域が果たす役割を見直すことが出来た。(児玉龍典)

形だけではない

目に見えない財産も大切にしよう

4



人のつながり、自然、伝統文化等・・・必ずしも形があるわけではないけど、大切なものが地域にはたくさんあります。目には見えないけれど、これらもかけがえのない宝です。

インタビューでの声

「お金じゃあない財産を得ている。人と人が支え合うつながり」(大石さん)

「地域を元気にしよう、地域に貢献しよう、というのが、勝間田塾の大切にしている思い」(横山さん、山本さん)

「神事として守るべき伝統は守っていく。あとは、楽しくやる」(今野さん)

牧之原市民研究メンバーの感想

私は今回、おはなし会の様子を見たり活動を行っている方々のお話を聞いたりすることができ、貴重な経験をさせていただきました。また、普段関わることのない年代の方とも関わることでよかったです。(寺尾華帆)

色々なグループや人と 協力し合いつながろう



自分達のグループだけで活動するのではなく、あらゆる人やグループと協力して、色々な資源を持ち寄ることによって、できることが増えていきます。

インタビューでの声

「ボランティアさんの専門性を得て充実した学習内容となっている。児童だけでなく教員も勉強させてもらっている」(原口さん)

「各学校で読書関係のボランティアを行っていて、その活動で知り合った人で同じ志を持つ人が集まってできた。活動場所が広がり、さらに様々な地域の人がメンバーになった」(植田さん、鈴掛さん)

牧之原市民研究メンバーの感想

農業だったりお祭りだったり、どちらも共通して深い歴史があることを知りました。農業・お祭りだけでなく他にもたくさんの深い歴史が牧之原にあると思うので、多くの人に牧之原市の古くからある宝物を知ってもらい、大切にしていきたいと思いました。(畑しおり)

チームづくりを工夫しよう

6



チームで活動するときは、お互いの関係性を良くして、メンバーの力が発揮できるための工夫をすることが大切です。

インタビューでの声

「メンバー同士が仲良くすること。毎年リーダーは決めるが、お互い対等な立場にいること」(増田さん、河原崎さん、山田さん)

「チーム内は意見を言いやすい環境。トップが聴く耳をもち、話し合いを大切に。メンバーの特異性を活かす」(大石さん)

「誰が来校しても笑顔で挨拶をし、できれば一言会話をするように、と学校の先生方には伝えている」(岩本さん)

牧之原市民研究メンバーの感想

地元を良くしたい。住み良いまちを作っていこう。子どもは宝、守り育てよう。と、その気持ちを持ち続けることがどんなに素敵なことか。みなさんにお会いし、お人柄にふれて強く思いました。(水嶋みゆき)

メンバーにとっても 元気をもらえる活動をつくろう

7



活動する一人ひとりが、やりがいや楽しさを感じられることが、
続いていくためのポイントのひとつです。

インタビューでの声

「みんなで協力して自分たちのペースでやること。無理をしないこと」(増田さん、河原崎さん、山田さん)

「きれいなピーマンを食べた、大根を嬉しそうに持って帰ってきた等、家庭内の会話に自分達の活動を出してくれるのが嬉しい」(増田さん、山下さん)

「子どもが喜んでいるのが嬉しく、次も頑張ろうと思える」(浅野さん)

牧之原市民研究メンバーの感想

思いのほか、たくさんの宝物が、牧之原にはありました。こんなに恵まれた地域に暮らせて、幸せだと思いました。(宮崎真菜)

次世代の人たちを大切にしよう



世代を越えて活動したり、後輩を育てたり、「子どもが好き」という思いであったり、次世代の人たちを大切にすることにより、ローカル・コモンズさらには地域が続いていきます。

インタビューでの声

「子どもは地域の宝だ。子どもたちを見守る、ということ。他の地域の人たちもそう思っている」(山下さん、増田さん)

「時に厳しく地域の人でしか言えないこと、先生でも言えないようなことも子どもたちに言う。子どもたちは卒業後も挨拶をしてくれる」(山下さん、増田さん)

「楽しいことだけでなく大変なこともあるんだよと、祭りを通して下の世代に教えていく」(今野さん)

「環境が変わってしまっても自分たちは変わらずに良いお話を子どもたちに届けていく」(植田さん、鈴掛さん)

牧之原市民研究メンバーの感想

私は「学校」2校、「おはなし会」3グループへ取材に行き、皆さんのお話から子どもたちへの深い愛を感じ感動しました。この人たちが「宝」と思いました。牧之原市はこういった人がどこにいるかわかるので、この宝の地図を書きたいと思いました。(横山奈緒美)



謝辞

本研究実施にあたり、「みんなの財産を発見して地域の力を高めよう」イベントに参加された牧之原市民の皆様、インタビューのご協力をいただいた皆様に心より感謝いたします。

研究チーム

津富宏(静岡県立大学国際関係学部教授、研究代表者)
松浦直毅(静岡県立大学国際関係学部助教授)
大江正章(コモンズ代表)
長谷川雅子(一般財団法人CSOネットワーク事務局次長)
田形正典(牧之原市役所地域振興課課長)
東宏乃(ふじのくにみらい共生センター地域連携コーディネーター)
【牧之原市民研究メンバー】
大石貴文、大石未紀、児玉龍典、寺尾華帆、畑しおり、水嶋みゆき、
横山奈緒美、宮崎真菜

構成・デザイン

磯村拓也

連絡先

静岡県立大学津富研究室
住所：〒422-8526 静岡県静岡市駿河区谷田 52-1
E-mail：tsutomi@u-shizuoka-ken.ac.jp

発行

平成31年1月31日

本研究は、静岡県立大学 平成30年度 地域志向研究「市民性の形成とローカル・コモンズによる助成を受けて実施しました。

東宏乃さんを偲んで

平成30年10月4日、この研究が始動した頃、チームメンバーの東宏乃さんが天へ旅立ちました。東さんがご縁と学びの種をたくさん撒いてくださり、私たちは牧之原が持つ素晴らしさの数々に気づくことができ、背中を押してもらいました。東さんに、心からの感謝と敬意を表します。